

# 2018年3月期 決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～  
<http://www.transgenic.co.jp>

**2018年5月23日**  
**株式会社トランスジェニック**

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

**I. 2018年3月期 連結決算概要**

**II. 2019年3月期 連結業績予想**

**III. 事業トピックス**

**IV. 研究開発状況**



# I .2018年3月期 連結決算概要

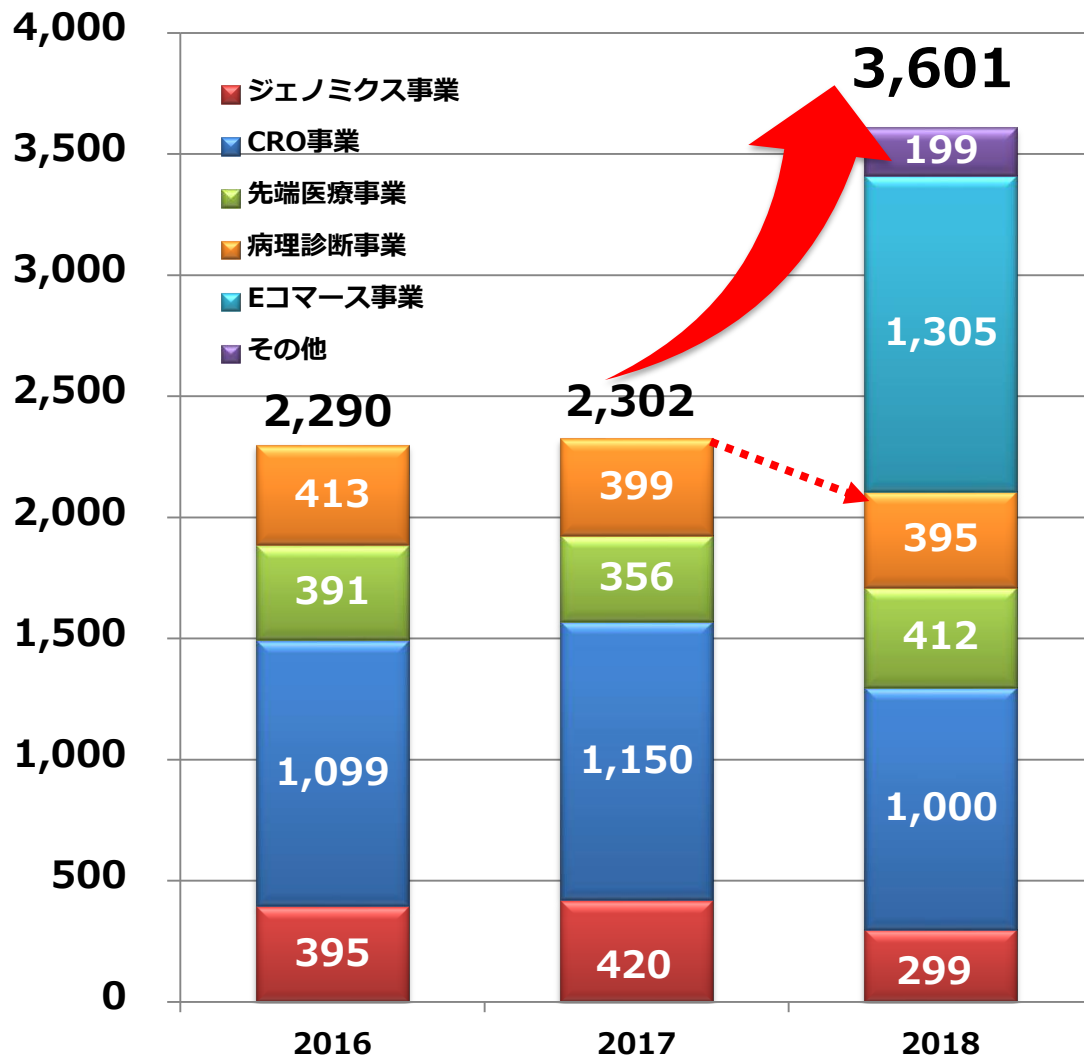
売上高は大幅増（前期比56.4%増）だったが、営業～最終損益は大幅減益となった。

- 要因は受注端境期だったCROの大幅減益と市場環境悪化を起因とするジェノミクスの不振
- 売上高はTGBS投資事業開始で大幅拡大するも、第3四半期以降開始のため利益貢献は限定
- TGBS投資事業利益の獲得及び先端医療事業業績の大幅改善の結果、通期業績は黒字を確保

単位：千円	2017年3月期	2018年3月期	増減額
売上高	2,302,908	3,601,283	1,298,374
売上原価	1,553,971	2,778,826	1,224,854
売上総利益	748,937	822,457	73,519
販管費 (研究開発費)	594,989 (48,015)	761,903 (55,156)	166,913 (7,141)
営業利益	153,948	60,554	▲93,394
経常利益	88,272	14,459	▲73,813
親会社株主に帰属する 当期純利益	80,694	20,898	▲59,796

## 過去3期間の売上高推移

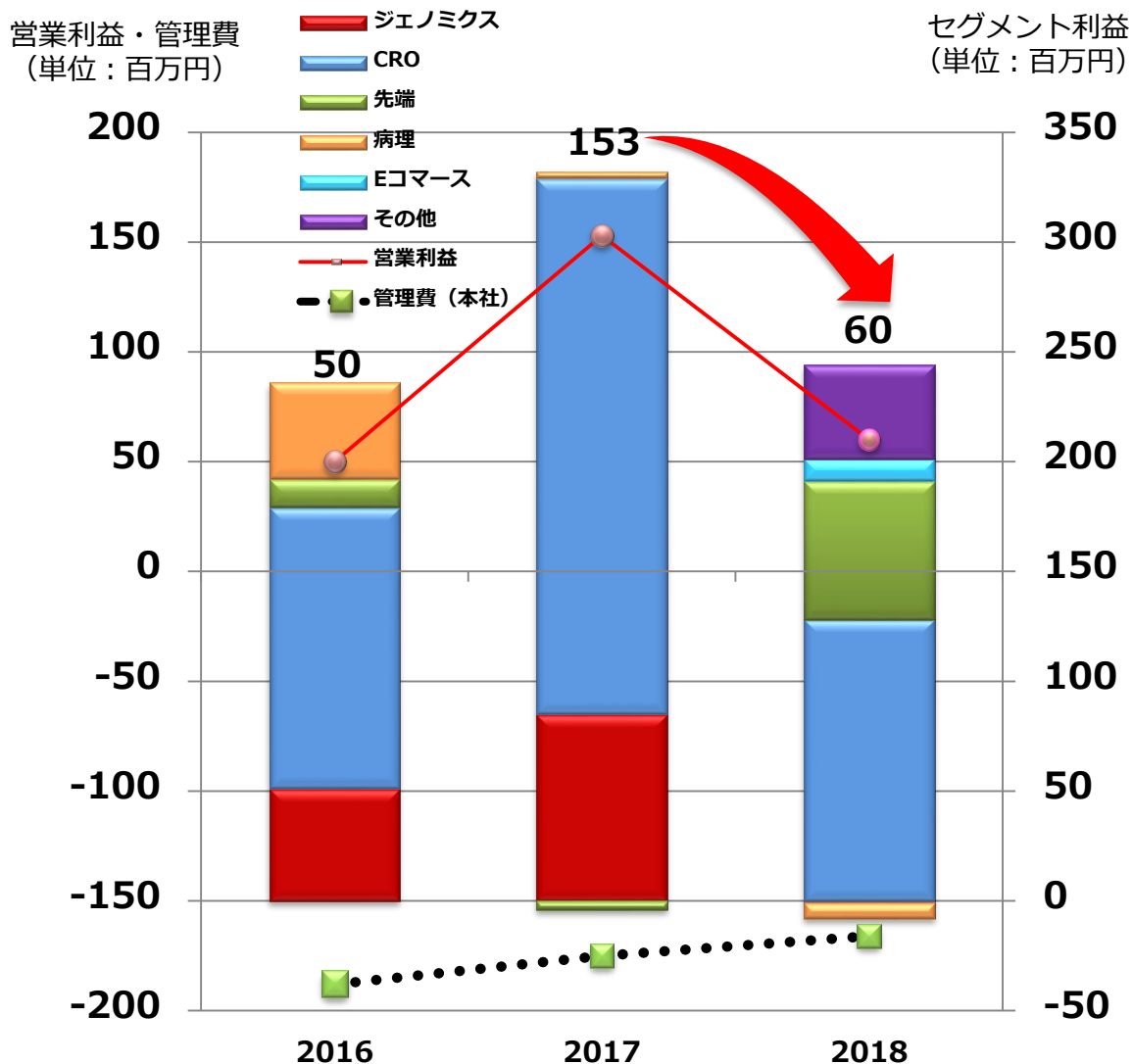
(百万円)



**連結売上高  
対前期比56.4%増**

- 新規連結子会社2社の売上貢献により大幅増収
- ジェノミクス及びCRO事業の減収により既存セグメントベースでは減収

## 過去3期間の連結営業利益推移



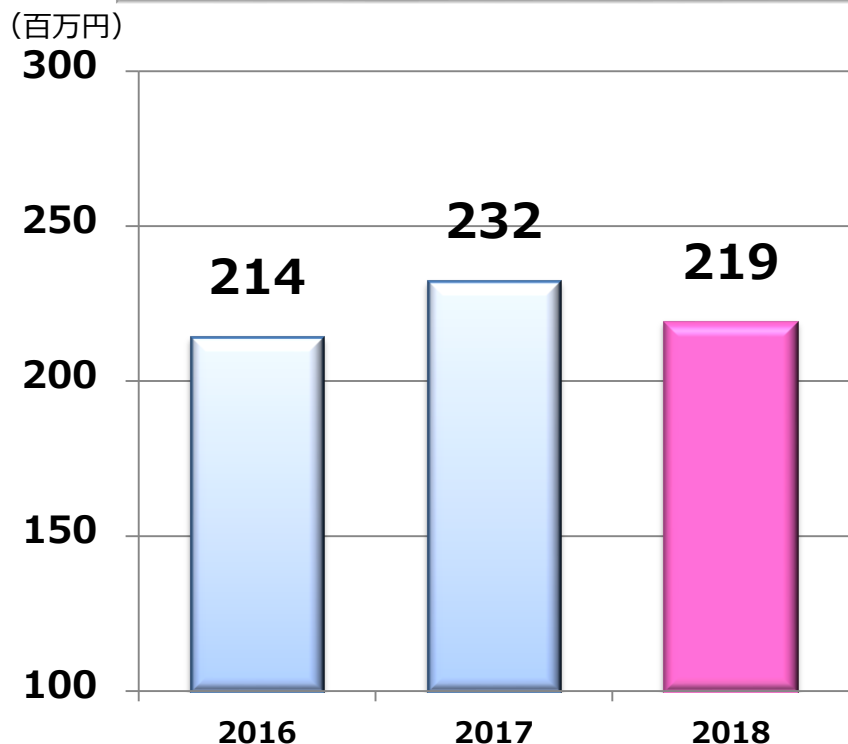
## 連結営業利益 対前期93百万減少

- 連結利益に占める割合が高いCRO事業の減益・ジェノミクス事業の損益悪化が連結営業損益を圧迫
- 先端医療事業損益は大幅改善。また、新規事業であるTGBS事業は下期以降開始ながらも着実に利益貢献
- 規模及び領域の拡大を進める一方で、管理費（本社コスト）は横這い、減少傾向で推移

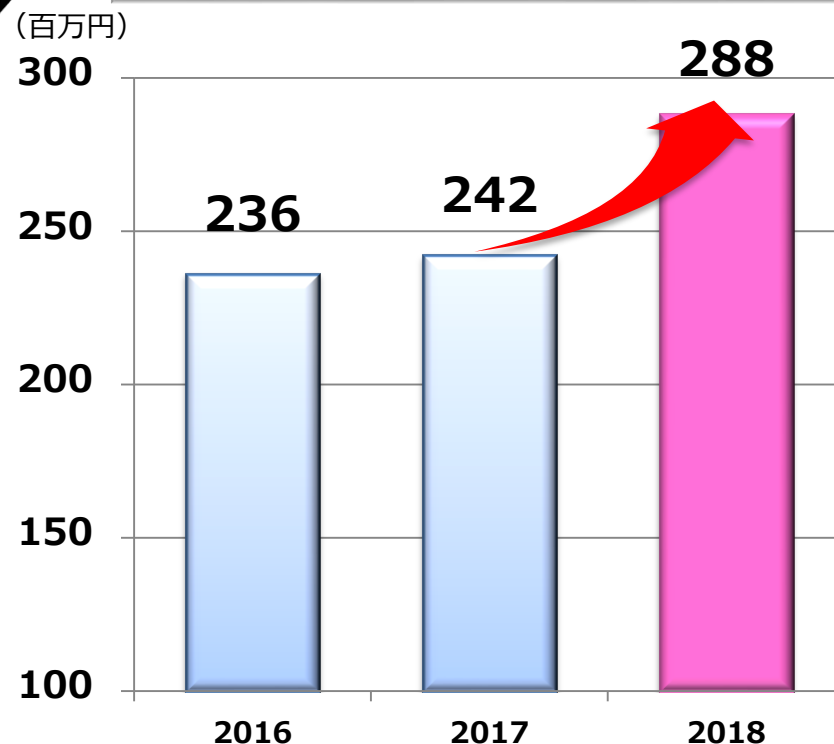
## 過去3期間の営業Cash・Flow推移

- 連結営業利益は1億円弱の減益だったが、営業Cash・Flowは堅調に推移
- 当期営業Cash・Flowの前期比マイナス要因は前期課税所得拡大に伴う法人税等支払負担の当期発生であり、税金等負担前営業Cash・Flowは事業領域拡大に伴い順調に増加傾向を維持

営業Cash・Flow推移



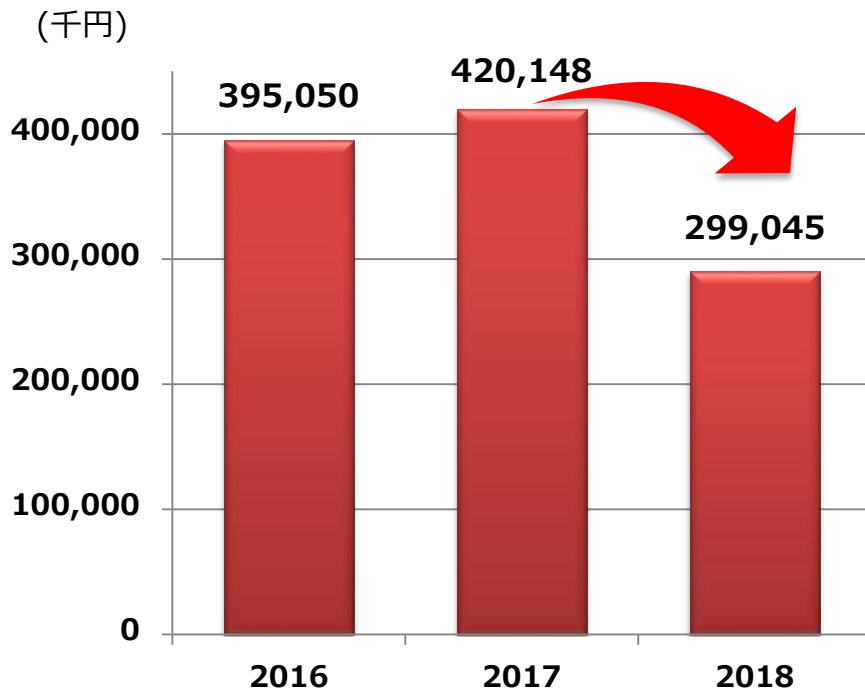
税金等負担前営業Cash・Flow推移



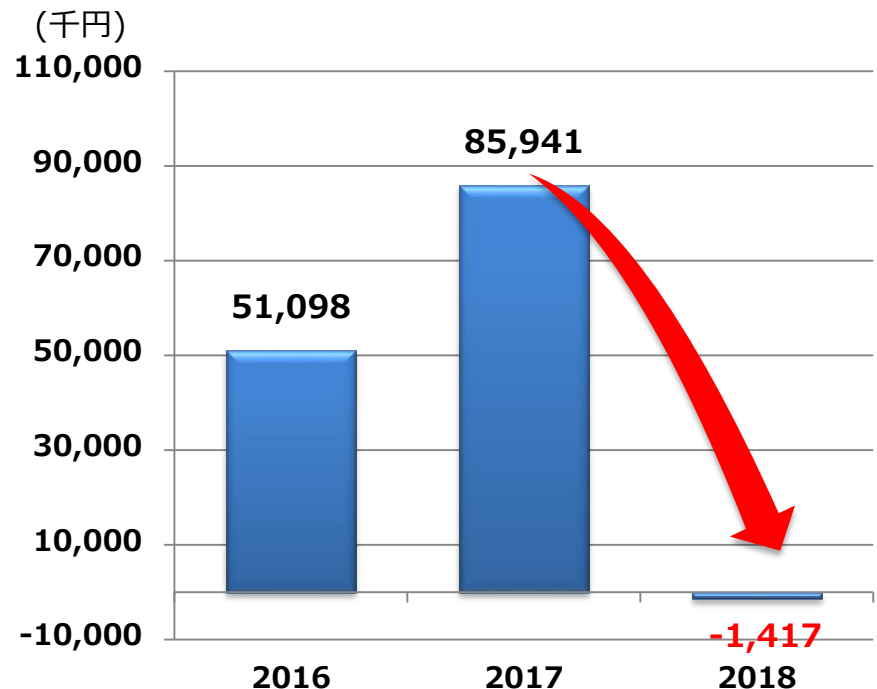
## ジェノミクス事業

- ▶ ゲノム編集技術(CRISPR/Cas9)が受託作製市場縮小をもたらし大幅減収減益
- ▶ アカデミア向け受託事業依存構造からの脱却を目指し、企業向け受注活動の強化及びCRO事業領域と交差するモデルマウス事業確立を急ぐ

売上高



営業利益



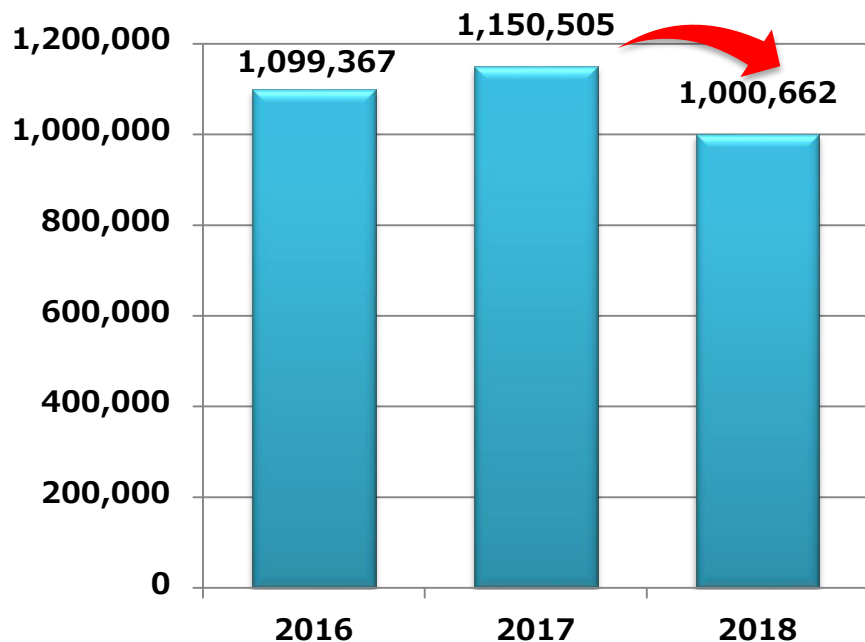


## CRO事業

- 上期受注獲得苦戦の影響により、下半期追い上げるも前期比で減収減益
- 受注は下半期以降回復傾向であること、BSRCグループ化による安全性試験拡充により新年度は大幅改善を予測

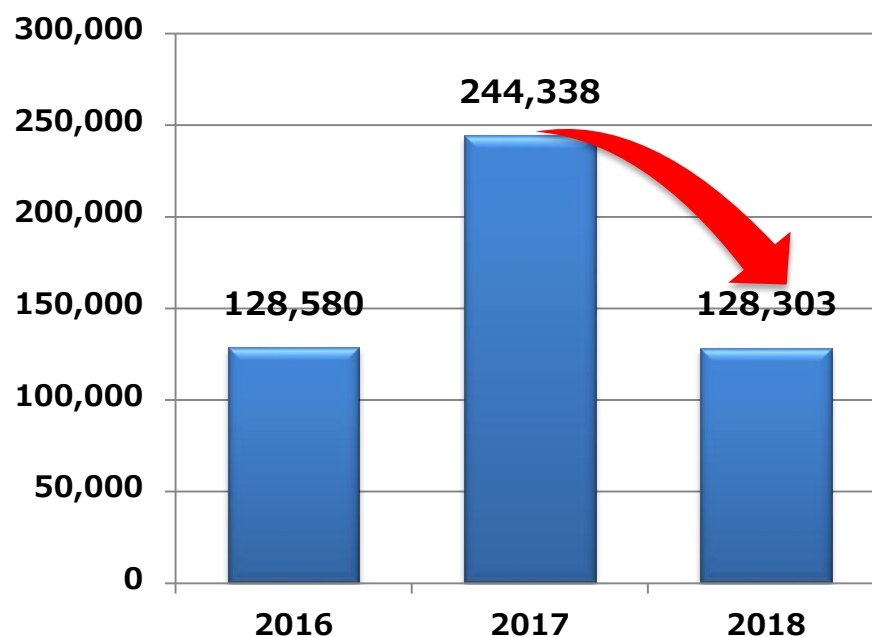
売上高

(千円)



営業利益

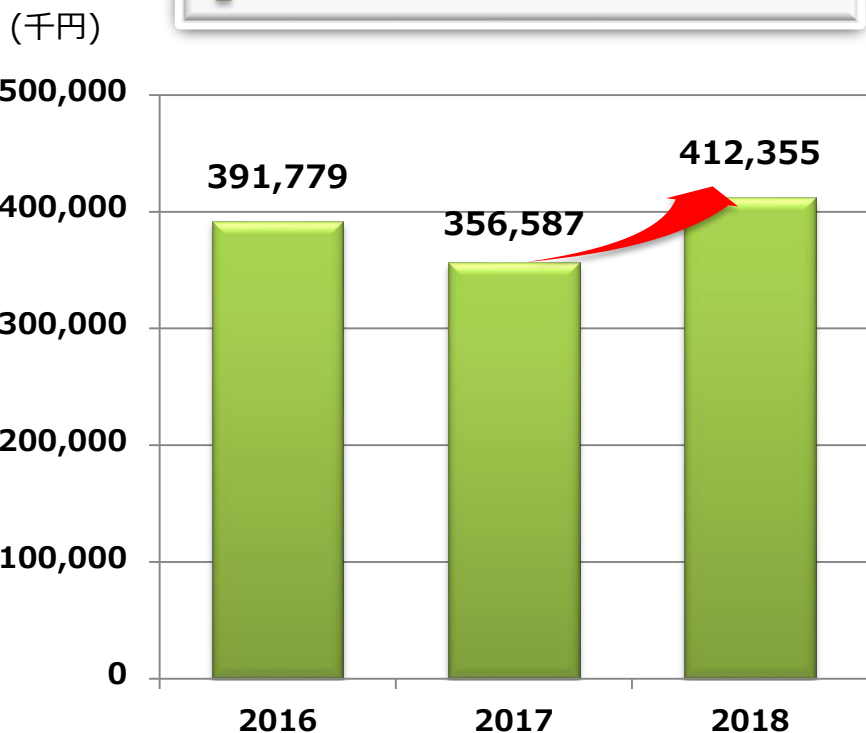
(千円)



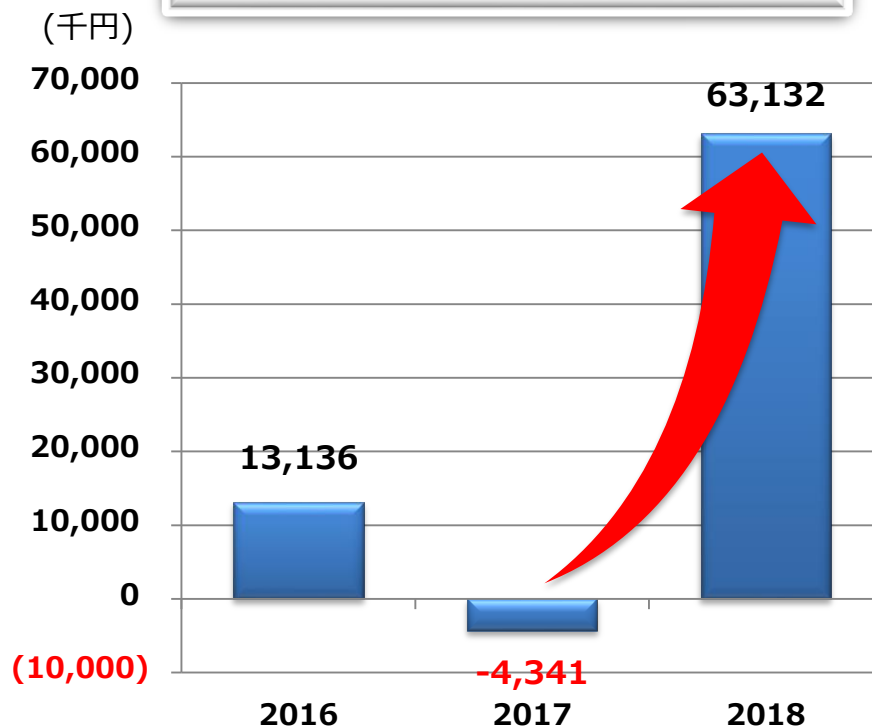
## 先端医療事業

- ▶ 一年を通じたDTCサービス受託事業の貢献、クリニカルシーケンス事業の開始により売上高は底上げ
- ▶ 製薬向け臨床試験支援サービスも順調に推移し前期比で増収増益を達成

売上高

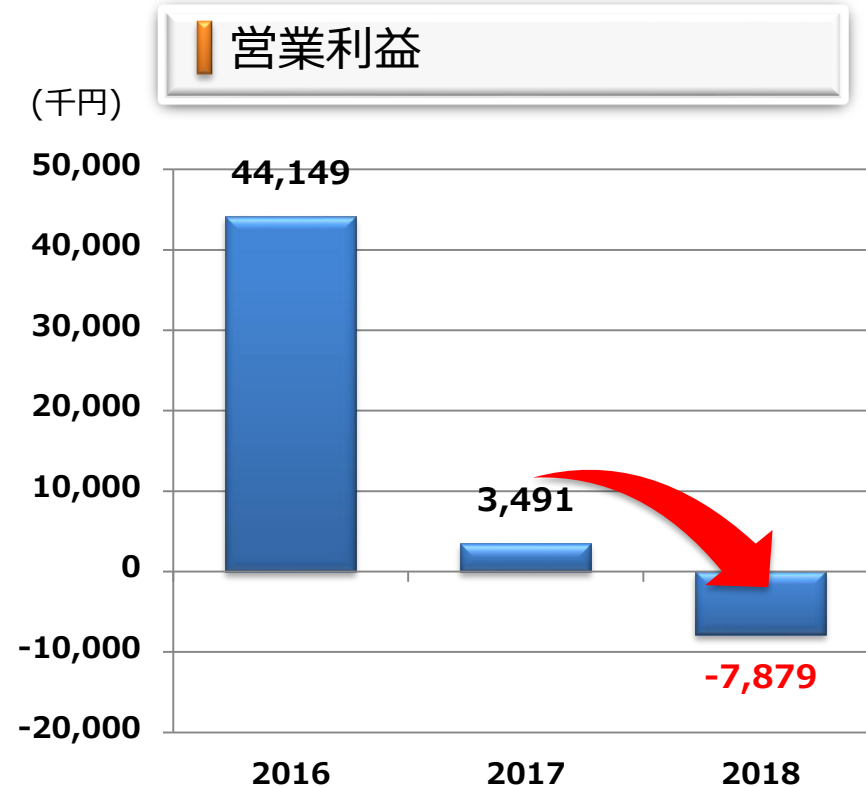
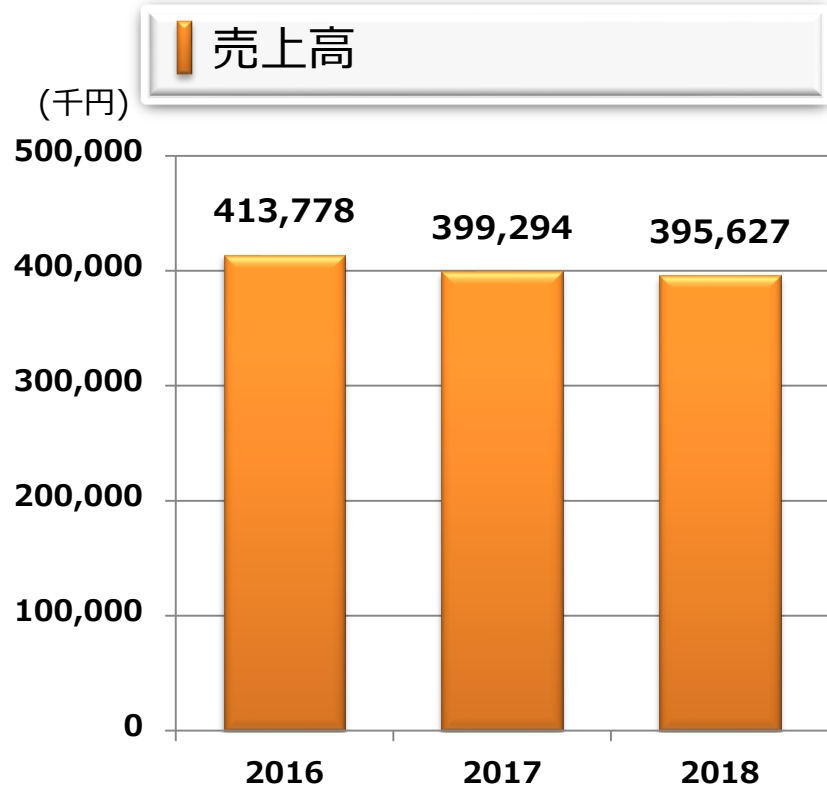


営業利益



## 病理診断事業

- ▶ 少子高齢化を背景とした病理診断件数の減少により既存診断サービス事業は減収。また、自己採取HPV事業拡大を図るもカバーできず減収減益
- ▶ 自己採取HPV事業の営業強化及び効率化推進継続により収支安定化を図る





## Ⅱ.2019年3月期 連結業績予想

## 2019年3月期 連結業績予想

- (株)安評センターのグループ加入、及びTGBS事業の通年貢献により売上高大幅拡大
- CRO事業営業利益の拡大、及びTGBS事業営業利益の通年貢献により営業利益大幅拡大

単位：千円	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	前期比	補足説明
売上高	3,601,283	<b>8,500,000</b>	<b>236.0%</b>	
ジェノミクス事業	299,045	<b>300,000</b>	<b>100.3%</b>	前期並みを想定
CRO事業	1,000,662	<b>1,860,000</b>	<b>185.9%</b>	M&A効果で増収を想定
先端医療事業	412,355	<b>450,000</b>	<b>109.1%</b>	足元のトレンドを反映
病理診断事業	395,627	<b>400,000</b>	<b>101.1%</b>	前期並みを想定
TGBS事業	1,505,360	<b>5,500,000</b>	<b>365.4%</b>	M&A効果が年間を通じて寄与
本社・連結調整	▲11,768	<b>▲10,000</b>		前期並みを想定
営業費用 (TGBS営業費用) (研究開発費)	3,540,729 (1,460,354) (55,156)	<b>8,200,000</b> <b>(5,400,000)</b> <b>(40,000)</b>	<b>231.6%</b>	EC事業に係る売上原価で大幅増
営業利益	60,554	<b>300,000</b>	<b>495.4%</b>	創薬支援約3.5億、TGBS約1億、及び本社費約△1.5億を想定
経常利益	14,459	<b>250,000</b>	<b>1,729.0%</b>	
親会社株主に帰属する 当期純利益	20,898	<b>150,000</b>	<b>717.8%</b>	

# 2019年3月期 連結業績予想（中計修正売上高について）

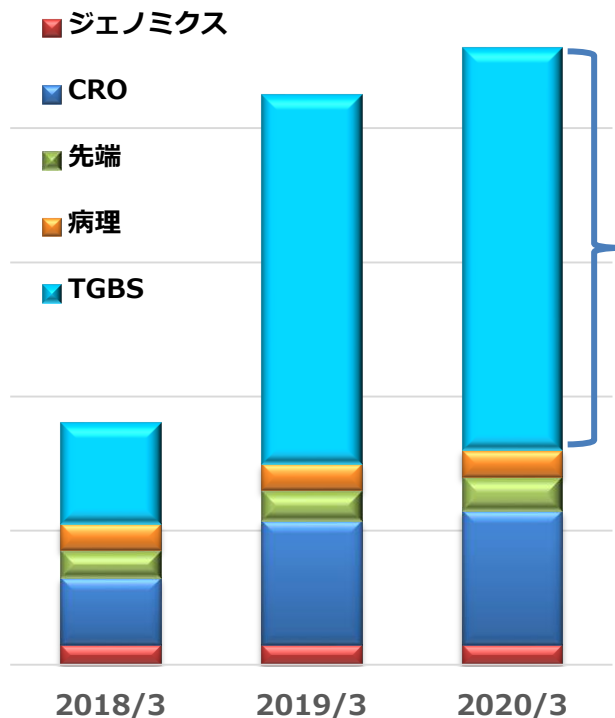
- 中計修正売上高の拡大要因であるTGBS事業（投資・コンサル事業）が有するEコマース事業売上高の特徴は、ネット上での低価格を武器にした大量販売取引である。当該Eコマース取引の収益を把握する観点からは、取扱高に類した売上高ではなく、実利（粗利）を収益と見做す方が、より明瞭である。
- 投資・コンサル事業の開始目的は、**ライフサイエンス事業（創薬支援事業）のリスクヘッジ・利益底上げであり売上規模拡大ではない**。当社グループの業績動向を把握・判断する上では、Eコマース事業の売上高は取扱高等の参考情報としてとらえ、利益（セグメント営業利益）を注視することが適切である。

## Eコマース売上高の現行会計処理



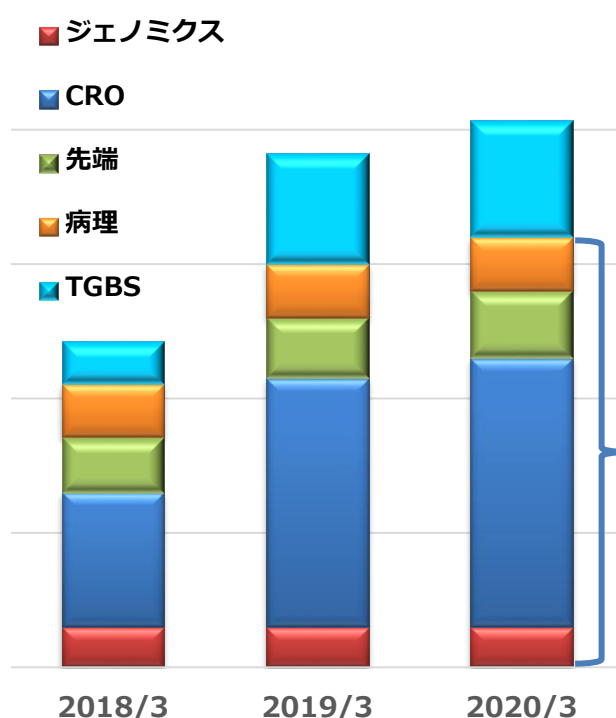
## 粗利高を売上高とみなした場合

(単位：千円)  
10,000,000



連結売上  
の  
6割強  
が  
EC  
事業

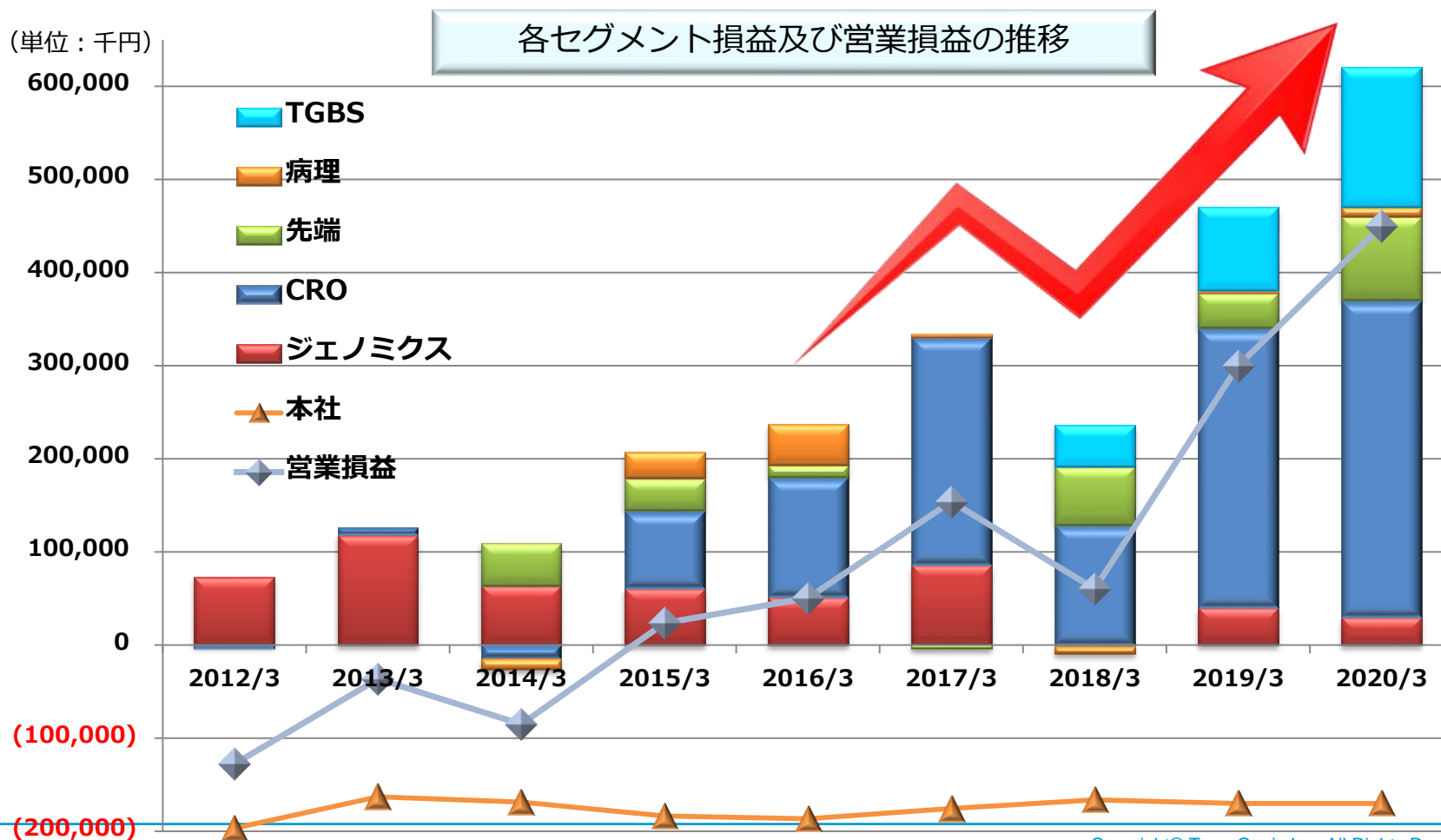
(単位：千円)  
5,000,000



連結  
売上  
の  
8割弱  
が  
創薬  
支援  
事業

# 2019年3月期 連結業績予想（修正中計営業利益イメージ）

- ジェノミクス事業の安定性、CRO事業の成長性に依存した増益基調構図の弱点が、今期露呈した。
- ジェノミクス事業についてはCRO事業領域への進出、病理診断事業についてはHPV検査サービスの拡大を実現し、早期に安定収益事業への回帰を図る。
- 今後は上記に加え、M&A及び再生を通じ再成長へ回帰を図る**CRO事業**、成長軌道が見えてきた**先端医療事業**、優良投資先を有する**TGBS事業**の**3本の矢**で、V字回復及び営業利益拡大を実現する。





# Ⅲ.事業トピックス



## ジェノミクス事業



### 事業持株会社

(補足説明)

- 従業員数は、単体が33名、連結グループ全体ではBSRC含め230名強
- 事業規模は各社昨年実績の単純合算ベースで売上高80億強  
(ライフサイエンス分野で27億、投資・コンサル事業分野で55億)

関係会社



## ライフサイエンス関連 企業グループ

# トランスジェニックグループ拠点紹介 (2018年4月1日現在)



設立 2017年11月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 10百万円  
 従業員数 5名  
 本社 福岡市中央区天神2-3-36

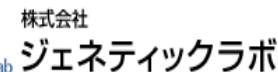
設立 1998年4月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 3,240百万円  
 従業員数 33名 (連結 : 231名)  
 本社 福岡市中央区天神2-3-36  
 神戸研究所 神戸市中央区港島南町7-1-14  
 東京事務所 東京都千代田区有楽町1-7-1



設立 2013年4月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 50百万円  
 従業員数 49名  
 本社 東京都千代田区有楽町1-7-1  
 中央研究所 北海道恵庭市戸磯452番地1



設立 2001年11月  
 代表者 中井 直也  
 資本金 10百万円  
 従業員数 2名  
 本社 北海道恵庭市戸磯452番地1



設立 2000年9月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 100百万円  
 従業員数 52名  
 本社 札幌市中央区北9条西15-28-196  
 東京事務所 東京都千代田区有楽町1-7-1



設立 2000年8月  
 代表者 小倉 達哉  
 資本金 30百万円  
 従業員数 19名  
 本社 東京都千代田区神田須田町2-7-3



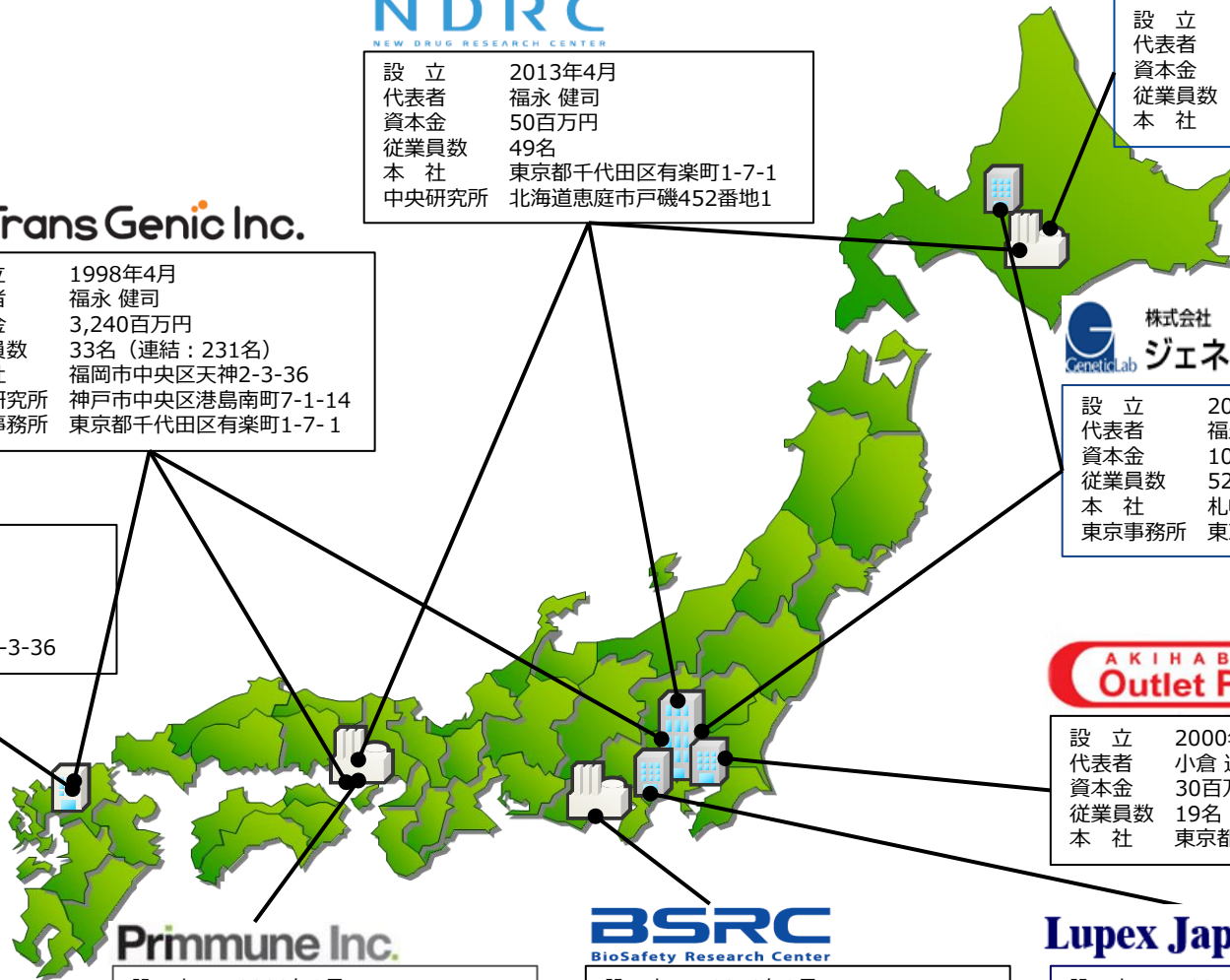
設立 2000年9月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 22百万円  
 従業員数 4名  
 本社 神戸市中央区港島南町7-1-14



設立 2018年3月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 100百万円  
 従業員数 62名  
 本社 静岡県磐田市塩新田582番地2

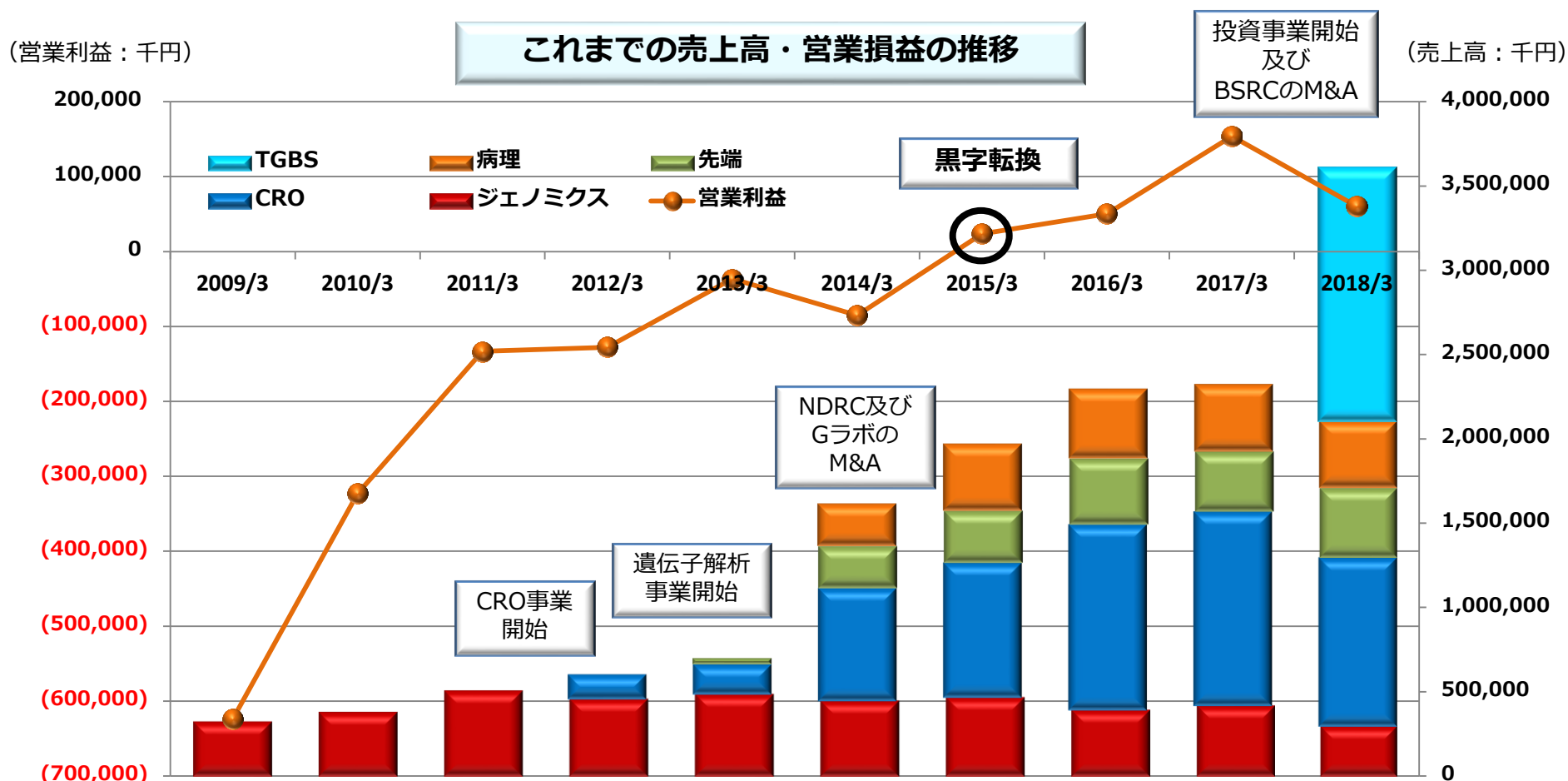


設立 1994年7月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 8百万円  
 従業員数 5名  
 本社 横浜市港北区新横浜2-11-5



# 2009年以降のグループ拡大の軌跡及び今回の取り組み

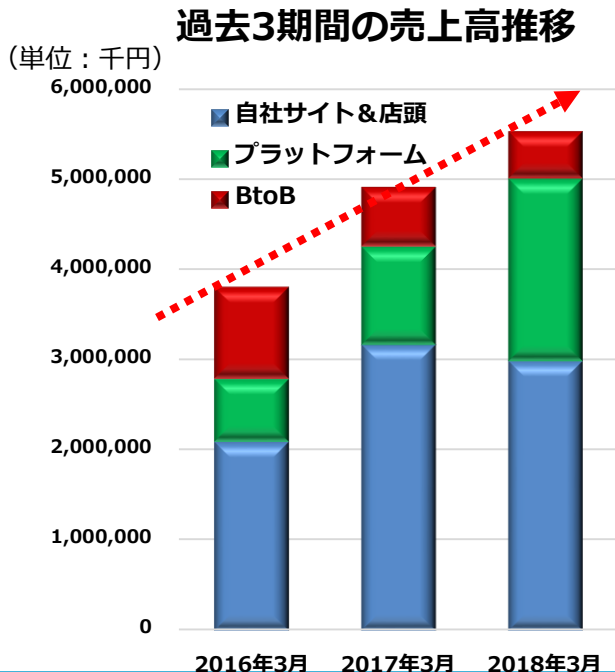
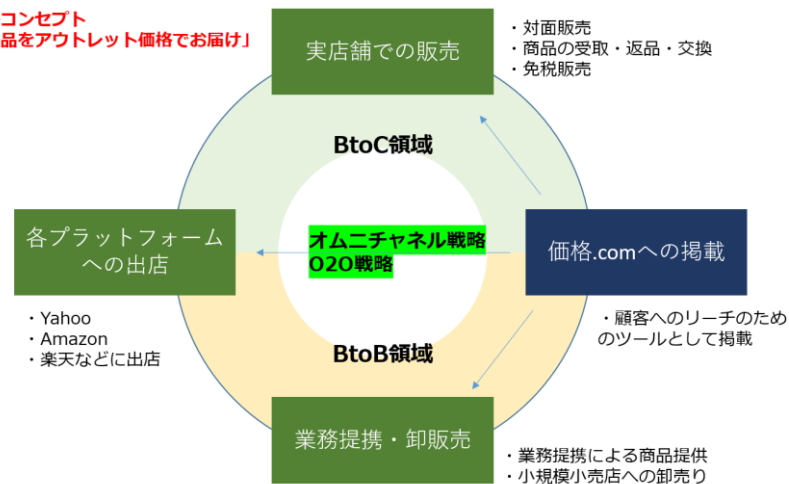
- 2009年4月以降の経営の基本方針は、経営効率化の徹底と主にM&Aを通じた事業領域拡大である。
- 2011年4月以降から新規事業CRO事業開始、2012年3月末に遺伝子解析事業譲受、2013年4月・7月にNDRCとGラボのM&A実行。2015年3月に黒字転換し以降4期連続黒字を達成している。
- これまでも事業の成長性鈍化に直面した際には**進化・変化**の時期・タイミングと捉え対応している。





会社名 株式会社アウトレットプラザ  
 設立 2000年8月  
 代表者 小倉 達哉  
 資本金 30百万円  
 従業員数 19名  
 本社 東京都千代田区神田須田町2-7-3

当社のコンセプト  
「新品をアウトレット価格でお届け」

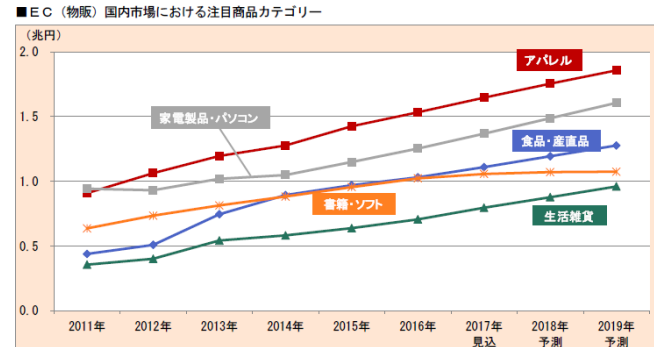
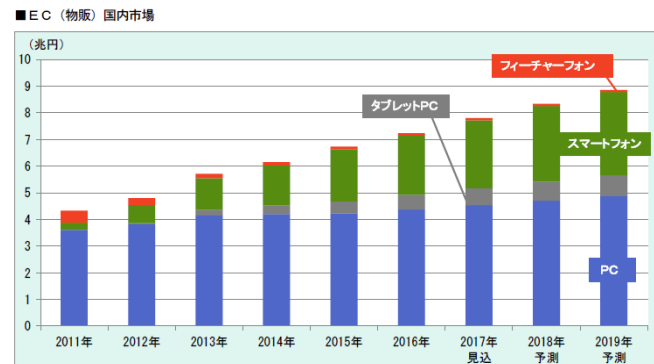


(売上動向)

- EC市場拡大に伴い、同社売上高も順調に拡大している。
- 近年はプラットフォーム売上の拡大が顕著である。

(本件M&Aの狙い)

- 世の中のトレンドとして利益成長が期待できる事業体の取り込み
- EC事業を営むグループ企業を有することで、今後の既存事業・新規事業（事業承継・再生案件）との相乗効果を期待



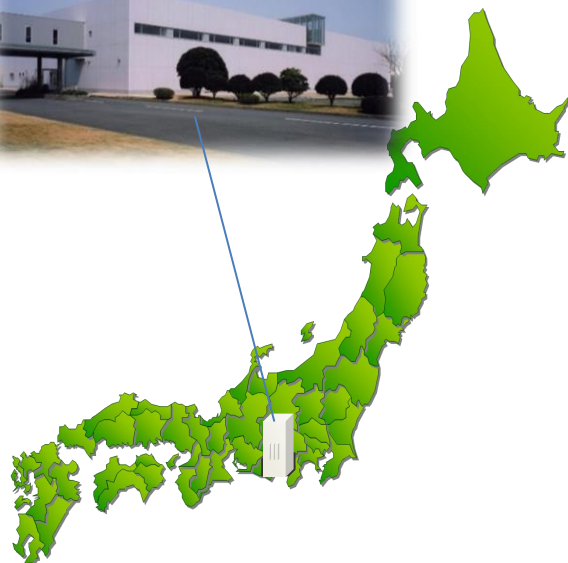
出展：富士経済「通販・eコマースビジネスの実態と今後2018」



- 食品・農医薬品安全性試験受託の先駆者、40年の歴史に裏付けされた信頼と実績
- 公益財団法人時代からGLP施設で蓄積された技術・サービス・ブランド



会社名 株式会社安評センター  
 設立 2018年3月  
 代表者 福永 健司  
 資本金 100百万円  
 従業員数 62名  
 本社 静岡県磐田市塩新田582番地2



### 提供サービス

<b>安全性試験</b>	<試験対象品目>
環境毒性試験	医薬品、農業、一般化学物質、医薬部外品、医療機器、医療材料、健康食品、食品添加物 等
薬理試験	
排水WET試験	
生体試料・物性分析	
病理検査・標本作製	

### 適合性検査等

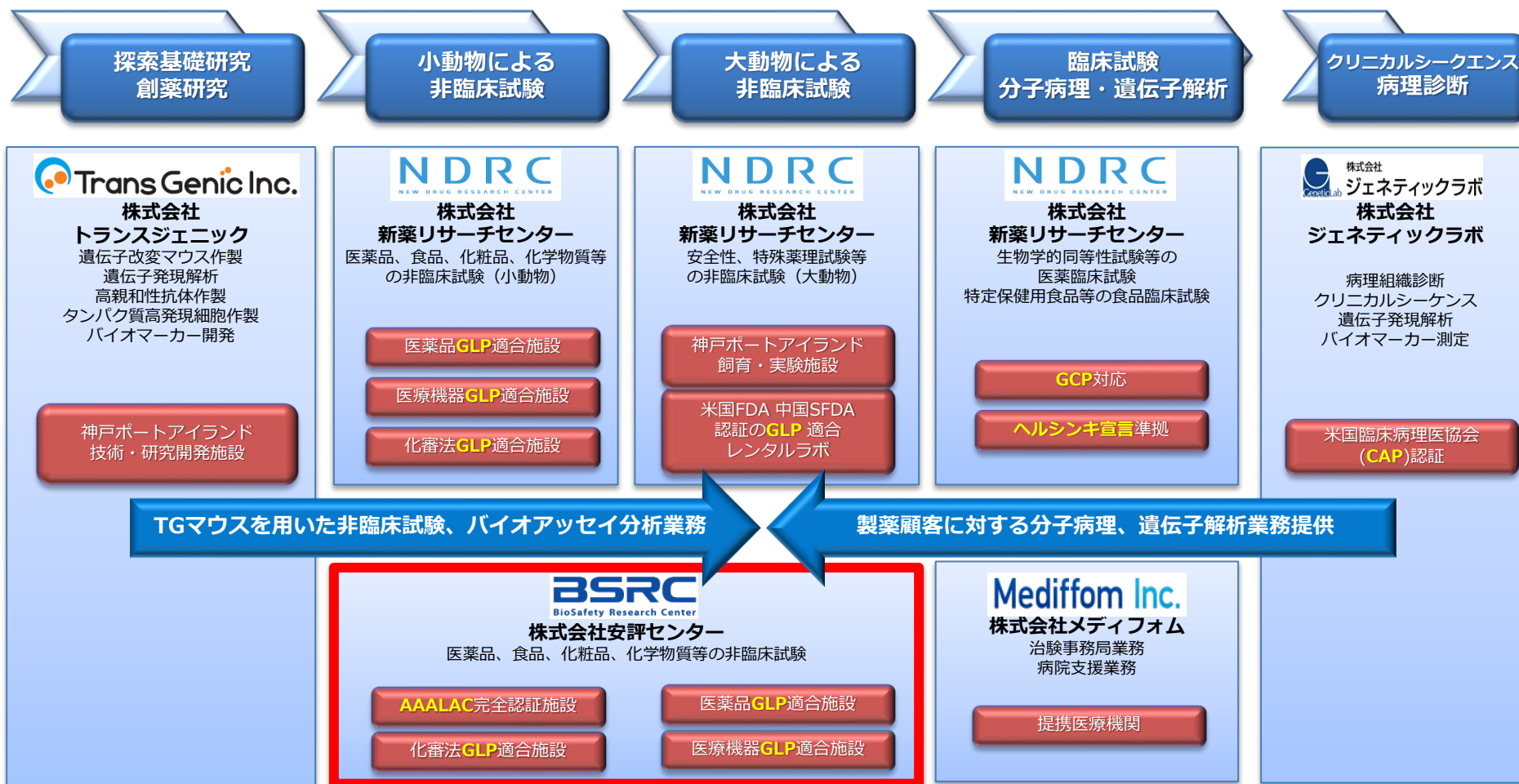
化審法（動植物毒性試験）審査	2017年03月24日 適合
AAALAC 認証	2017年03月01日 完全認証
安衛法査察	2016年06月22日 評価可
化審法（毒性等試験）確認申請	2017年03月24日 適合
医薬品医療機器総合機構調査	2016年02月01日 適合
農林水産省検証	2016年02月01日 確認

### 本M&Aの目的であるグループCROの業績目標イメージ (単位：百万円)

NDRC単独		NDRC+BSRC		CRO 中長期目標
NDRC2018年3月		BSRC加入後（来期）		
売上分類	売上金額	売上分類	売上金額	売上金額
安全性（小動物）	135	安全性（全動物）	850	1,000
安全性（大動物）	-	薬理（全動物）	550	1,000
薬理（全動物）	496	臨床	450	1,000
臨床	368	売上高合計	1,850	3,000
売上高合計	1,000			

## 創薬支援事業の規模・領域の土台は完成。グループ総合力発揮のステージへ

### 基礎研究～診断までのシームレスなサポート (2018年4月1日現在)



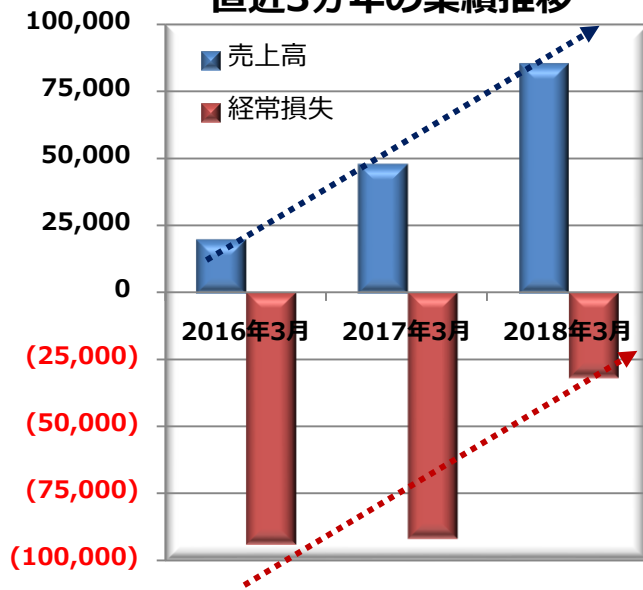


## MCP 医化学創薬株式会社 2018年4月2日の増資引受で持分比率は33.3%から43.0%に拡大

- 糖鎖解析・合成受託及び共同研究を柱に事業は順調に拡大
- 将来収益確保のため各種施策を推進

(単位：千円)

### 直近3カ年の業績推移



### 将来の収益確保のための施策

- ・ 東北大学 未来科学技術共同研究センター 加藤幸成教授と共同研究 (2018年4月)  
加藤教授はCasMab法\*の発明者として著名な研究者
- ・ 加藤幸成教授が作製した抗体の販売契約を締結 (2018年4月、5月)
- ・ 水処理膜に関する糖鎖解析サービスを開始 (2018年4月)
- ・ 自社創製抗体に関してドイツの企業と導出の交渉を開始

\* : CasMab法 : たんぱく質の一部と糖鎖の両方を同時に認識する抗体の作製法



株式会社免疫生物研究所  
Immuno-Biological Laboratories Co., Ltd.



株式会社CURED

- IBL社とCURED社が、共同で開発してきた遺伝子組換えカイコを用いた抗HIV抗体開発について、その進捗結果を受け、両社は2018年3月16日に共同事業化推進を前提とした共同開発契約を締結



株式会社

ジェネティックラボ

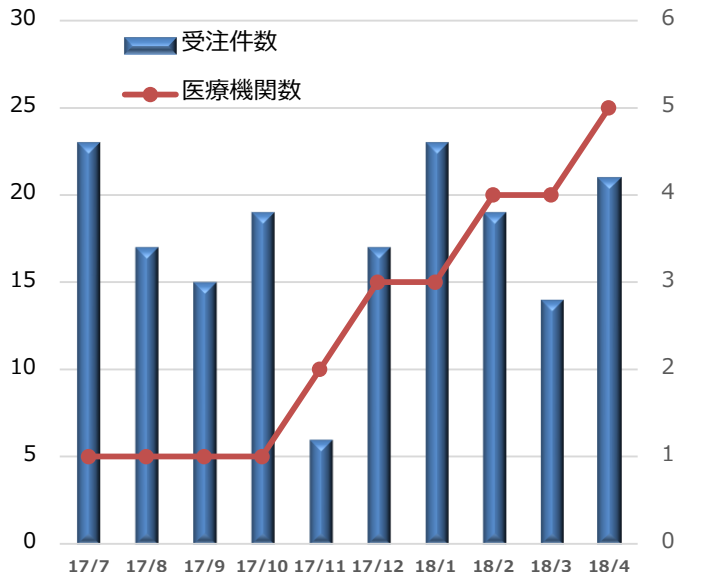
## プレジジョン検査

時期	この一年間の普及状況
2017年7月	北海道がんセンター（札幌市白石区）にてプレジジョン検査を開始
2017年11月	慶応大学病院（東京都新宿区）にてプレジジョン検査を開始
2017年12月	木沢記念病院（岐阜県美濃加茂市）にてプレジジョン検査を開始
2018年2月	静和記念病院（札幌市西区）にてプレジジョン検査を開始
2018年4月	島根大学病院（島根県出雲市）にてプレジジョン検査を開始

## （自己採取）HPV検査

時期	サービス開始状況
2014年5月	液状細胞診を利用したHPV検査サービスを開始
2016年11月	自己採取HPV検査サービスを開始
2017年2月	BtoCの自己採取HPV検査サービス（PAPI'QSS）をグループ会社(株)プライミュンにて開始
2017年10月	「“ストップ！子宮頸がん”の会」市民フォーラムを開催
2017年12月	自治体向け自己採取HPV検査サービスを開始

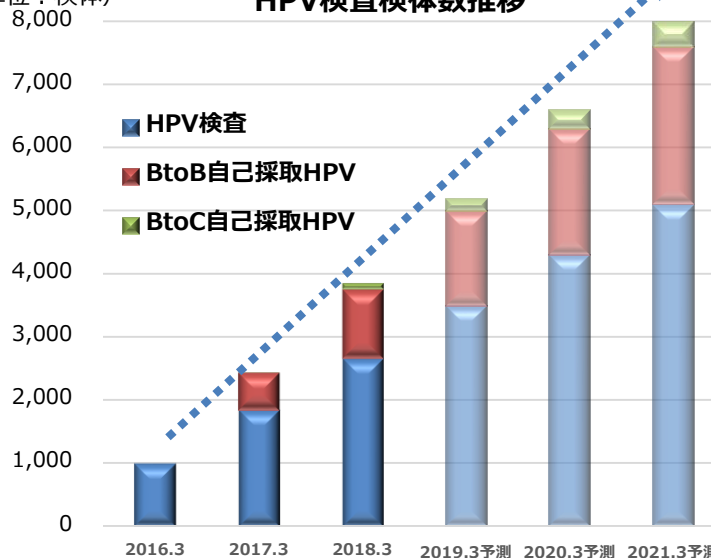
受注検体数



- ▶ 北海道がんセンターでのプレジジョン検査サービス開始当初は、そのアナウンス効果もあり全国規模で検査希望の依頼あり。その後、採用医療機関も増加し、堅調に検査依頼数は推移。
- ▶ 自由診療のプレジジョン検査に加え、患者さんのニーズに応え、価格を抑えたスモールパネルでのサービス開始を検討中。

(単位：検体)

## HPV検査検体数推移



- ▶ まだ売上インパクトは小さいが、確実に検査件数増加中。
- ▶ HPV検査有用性、啓蒙活動及び営業活動について引き続き強化推進する方針。







## IV. 研究開発状況

# 開発パイプライン状況：モデルマウス系統

遺伝子改変技術開発

ROSA26座位での組換え

CRISPR/Cas9法

実用化済

モデルマウス系統の開発

※自社または外部研究機関からの導入開発



モデルマウス系統	開発元	開発状況
病態可視化マウス	小胞体ストレス可視化マウス	理研 → 个体販売中
	酸化ストレス可視化マウス	群馬大 → 个体販売中
	炎症可視化マウス	群馬大 → 个体販売中
	UMAIマウス	金沢医科大学 → <i>New</i> 个体販売中
中枢神経系モデルマウス	アルツハイマー病モデルマウス	大阪市立大 → 个体販売中
	認知症モデルマウス	(有)行動医科研 → 受託サービス実施中
	精神・神経疾患モデルマウス	産総研 → 个体販売中
メタボリックシンドローム系モデルマウス	NASHモデルマウス	東大 → <i>New</i> 受託サービス実施中
	肥満抑制モデルマウス	TG社 → 个体販売中
夜型モデルマウス	産総研	个体販売中
アトピー性皮膚炎モデルマウス	兵庫医科大、三重大	<i>New</i> 受託サービス実施中 个体販売中
肝臓ヒト化マウス	熊本大・TG社	技術移転実施中

短期

中期



## 抗体製品の開発と応用

外部研究機関からの導入開発

日本、アジア10か国、欧州8か国で上市

肝臓がんマーカー

アボット社

尿中がんマーカー

九州大学等

※中国企業での臨床試験実施中

上市に向け進行中  
(国内診断薬メーカー、  
テクノメディカ)

膵がんマーカー

国立がんセンター

※(株)免疫生物研究所と共同研究  
※中国企業と独占ライセンス契約締結

ライセンス先交渉中  
追加データ蓄積中  
測定キット販売中

泌尿器がんマーカー

順天堂大学

※中国企業と独占ライセンス契約締結

測定キット販売準備中

うつ病マーカー

産総研

測定キット販売準備中

卵胞機能マーカー

聖マリアンナ医大

抗体作製中

自己免疫疾患マーカー

医化学創薬

有用性検証中

乳がんマーカー

医化学創薬

有用性検証中

2017年	4月	病態可視化マウスに関する論文がScientific Reports に掲載
	6月	がんクリニカルシーケンス受託解析サービス開始※1 早期がんマーカーとしてのジアセチルスペルミンに関する特許実施許諾契約を締結 アルツハイマー病モデルマウスに関するライセンス契約締結 「エクソソーム糖鎖解析サービス」開始※2 アルツハイマー病治療薬に関する共同研究開発契約締結
	7月	機能性糖ペプチドに対する抗体に関する共同研究開発契約締結※2 精神・神経疾患モデルマウスに関するライセンス契約締結※3
	8月	遺伝子改変モデルマウスを用いた中枢神経系非臨床試験受託サービス開始 がんクリニカルシーケンス受託解析サービスの販売代理店契約の締結※1
	10月	「"ストップ！子宮頸がん"の会」市民フォーラム開催※1
	11月	非アルコール性脂肪肝炎（NASH）モデルマウスに関する独占ライセンス契約締結
	12月	抗インドキシル硫酸モノクローナル抗体販売開始 自己採取HPV検査サービスの自治体との契約締結※1 高効率CRISPR/Cas9ノックイン法に関する非独占ライセンス契約締結
2018年	1月	網羅的がん遺伝子解析の新規採用機関について※1 自己採取HPV検査に関する大手薬局チェーンとの契約締結※1
	2月	アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いた非臨床試験受託サービス開始※3 「GlyPAdoc」サービス開始※2
	3月	孫会社のCRO事業譲受け※3

■ 共同研究   
 ■ ライセンス契約   
 ■ 製品・サービス   
 ■ 学会・論文   
 ■ その他

当社グループ会社   
 ※1 ジェネティックラボ   
 ※2 医化学創薬   
 ※3 新薬リサーチセンター



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>